

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401722		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家 景景 1階		
所在地	北海道函館市松陰町1番43号		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401722-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成31年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・笑顔・安心」を理念とし、職員一人一人が理念に則り日々業務に努めております。又、住宅街に位置していることから普段より近隣住民とのコミュニケーションが図れる様に活動しております。行事等開催時には近隣住民の参加もあり日々地域密着に力を入れております。昨年の地域交流を目的とした行事開催は遺愛高校訪問及び慰問行事、七夕、敬老会(ボランティア受け入れ)、函館工業高校演奏会の受け入れです。その他、法人内での委員会活動も積極的に行い交流を通し情報の共有、サービスの向上に取り組んでおります。「事故防止委員会」「身体拘束廃止委員会」「入居判定会議」等

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

五稜郭の市電通りの程近くの閑静な住宅街に平成18年2月開設の木造2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。一人ひとりの力やその日の希望に沿って、四季の杜へのドライブや花見、香雪園での紅葉見物や湯の川で足湯を楽しんだり、町内会の夏祭りに参加して屋台の出店見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して戸外に出かけられるように支援している。地元女子高校の生徒達が慰問に訪れ聖歌や演奏を披露してくれたり、花見の時期には利用者を迎えに来てくれて花見につれて行ってくれている。また、地元工業高校生徒による合唱や吹奏楽の演奏会開催や幼稚園児による慰問、地域ボランティアによる民謡など地域の人々の協力を得ながら、交流・連携に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設では、五箇条を設定し施設に掲示し理念として周知し業務に当たっています。	事業所理念を作り見やすい場所に掲示し、ミーティングや内部研修会を通じてその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣町会とは、地域行事(町会主催の夏祭り)への参加等を通して季節や地域との交流に努めています。	地元女子高校の生徒達の慰問や花見の時期には利用者を迎えに来てくれて花見につれて行ってくれている。また、地元工業高校生徒や幼稚園児による慰問、地域ボランティアの協力を得ながら、交流・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣町会とは連絡を密にし、地域の役に立てるよう地域活動には積極的に取り組んでいる。また、運営推進会議や町会主催の地域ケア会議に参加することもあり、認知症の理解や支援方法を深めて頂く努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年に6回運営推進会議を実施しており、会議には町会・包括支援センター職員・入居者様・御家族様・民生委員・市町村担当者など外部の方にも参加して頂いており、意見をサービスの向上へ繋げている。	運営推進会議を2カ月ごとに開催して、日常生活の様子や事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃より運営推進会議や日常業務を通じて情報交換や相談を行っており、実績や取り組みを伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、助言や指導を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束廃止委員会があり、職員全員で身体拘束について情報・意識の共有が行われている。玄関について、夜間は防犯の為施錠しているが、日中は開放している。	身体拘束廃止委員会が中心となって内部研修会を開催し、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を定期的に開催して虐待防止に努めている。新規採用職員には、高齢者虐待感想文を書いて貰い、高齢者虐待防止への意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業については、今後必要となる場合に備えて新人スタッフも含め勉強会を積極的に行っていかなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約に関して、担当管理者が説明をして理解、納得を得ている。不安や疑問点についても随時対応して理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口を設置しており、意見や要望があった場合は管理者を含めたスタッフ会議等で原因を考えて改善策を話し合っている。また、話し合いの内容については御家族様に開示している。	本人・家族等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置して、その機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。また、苦情等の第三者機関への申し出先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとにスタッフ会議定期的に開いており、週に1回代表者や全事業所管理者が集まり、会議を開いている。その他、周知内容等は専用インターネットシステムを利用し、閲覧出来るようにしている。意見や提案は毎日の申し送りやカンファレンスを開催し意見を募っている。	スタッフ会議やミーティング、個人面談の実施や日常業務を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員一人ひとりの能力・実績・勤務態度等の評価を代表者に報告して給与に反映させている。給与水準の向上などにより、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の参加を院内メールにて全職員に促しています。ユニット毎でも勉強会を開催しており勤務時間内に全職員が誰でも参加できる体制を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	当グループホームは南北海道連絡協議会へ属しており、研修への参加、同業者との交流の機会を設け、情報交換を行う事によりサービスの質を向上させていく取組をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には御自宅や入所施設等へ伺い、御本人様の意見や不安に耳を傾け、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前には御自宅や当施設等で御家族様が困っている事、不安な事は事前にお話を聞いて関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に該当階管理者、入退居担当者及び計画作成担当者と御家族様、御本人様で話し合える場を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様それぞれの既往歴などを元に、コミュニケーションを図っており、家事や遊び等を一緒に行う事で共同生活の場で同じ時間を過ごさせて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常生活の状況について、その都度、御家族様へ報告を行っている。御家族様の希望、要望は可能な限り取り入れ、御家族様と職員が共に入居者様を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去からの馴染みの関係がいつまでも途切れない様に、面会時間の制限は設けていない。御友人の訪問だけではなく、電話や手紙などもお手伝いしている。	地元高校生や幼稚園児との交流、町内会の夏祭り参加や花見など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が一緒に行える家事作業(食器拭き、洗濯たたみ)等の場面を職員が配慮している。食事の時間やお茶の時間は、入居者様同士が交流を深められる様な環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係を断ち切らない付き合いが出来るように心がけている。現時点でサービス利用終了後も継続的な関わりを必要とする入居者様はいない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望・要望を伺い、御本人様本意の生活を送って頂ける様に日頃の会話や生活から意志や思いを取り入れて、定期的なカンファレンス会議やスタッフ会議を行っている。	カンファレンスやスタッフ会議を通じて、一人ひとりの希望や意向を職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には御本人様・御家族様と面談を行い、計画作成担当者がフェイスシートを作成し、職員間で情報を共有して馴染みの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの状況を介護記録に記入し、入居者様一人ひとりの状態の把握に努めている。変化があった時は、申し送りや専用インターネットシステムを活用しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様、御本人様、介護支援専門員、主治医、医療連携看護師、職員と定期的に話し合いや会議を開催し、そこでの情報を基に計画作成担当者が介護計画を立てている。	本人、家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間帯の入居者様の状態・様子を個別に記録している。専用インターネットシステムも利用しながら、職員間の情報共有に努めており、より良い介護支援計画に繋がるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・御家族様の状態、状況に応じ、その時々生まれるニーズ(外出・外泊・買物・受診)に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣町会の高齢化もあり、交流が減って来ている傾向にある、ただ近隣高校や教育機関との交流は以前と比べ、多くなって来ている。今後はさらなる地域資源の開発に努めたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様が昔から掛かっているかかりつけの医療機関を利用して頂いている。週に1回、医療連携看護師による健康管理を行っており、随時相談や助言を受ける事ができる。	往診や訪問看護の利用、通院への支援や日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。受診は、本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は24時間確保されており、週に一度、看護師による、訪問・相談を行なっている。看護師からは医療面での適切な相談・助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には担当医、担当看護師と情報交換を行い、入院中も安心して過ごして頂ける様に努めている。また、早期退院が出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた対応や希望については、御本人様御家族様、主治医、医療連携看護師と担当者会議を開き、入居者様が最後まで安心して生活して頂ける様に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら職員間で指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを完備しており、勉強会、研修会を開催して各ユニットで話し合って適切な判断・対応が出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いのもと、年に2回避難訓練を実施しており、災害の際には迅速に避難できる体制を整えている。今後も近隣住民の協力が得られるように連携を計り、協力体制を築いていきたい。	スプリンクラーや火災報知機等の設備が完備され、定期点検が行われている。消防署の協力を得て、年2回昼夜を想定した通報訓練や火災避難訓練を実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉遣いや声掛けには十分に気を配る様、管理者を中心に指導を行っており、御本人様の意志を尊重させたケアを行っている。	一人ひとりの尊厳や誇りを損ねないよう内部研修会やスタッフ会議を通じて職員間で共有し、言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の希望を尊重し、自己決定出来る様に努めている。日常生活の中で入居者の活躍の場を探し、増やしていく事で認知症の進行予防に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の自己都合で行動せず、入居者様一人ひとりのペースを大切に、希望や意向に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容や馴染みの美容室を希望に応じて利用出来る様に支援している。季節にあった服装の声掛けや御本人が選んだ洋服が着れる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に準備や片付けを行い、共に同じ物を食べている。食事が楽しい時間になるように、入居者様の食べたい物を伺ったり、旬の食材を活用している。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や、後片付け、食器拭き等を職員と一緒にやっている。また、水分・食事摂取量を把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録を活用し、食事量・水分量等を全職員が把握しており、栄養のバランスが偏らないようにメニューを考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分でケアが出来る方へは声掛け・確認し、御自分で出来ない方には介助を行って、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録を活用してそれぞれの排泄パターンを把握し、定期的にトイレに誘導している。失敗を減らして、更に御家族様へのコスト削減に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握しており、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録や排便確認表を活用し、全職員が入居者様の排便状況を把握しており便秘予防として食物繊維の多い食材を取り入れる様に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の時間帯は特に制限はなく、御本人様の好きな時間に入浴して頂ける様に配慮しており、御本人様の希望を聞かせて頂いてから入浴の準備を行っている。	一人ひとりの希望やタイミングに応じた入浴支援をしている。また、本人の希望に沿った柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様は好きな場所で休息をとられており、ゆっくりと寛げる環境作りをしている。また、介護記録を活用して睡眠状況を把握する事で、安心した睡眠がとれる配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表や個人ファイルを活用する事により、入居者様の服薬状況を全職員が把握し、その方に合った、用法・用量を守る様に見守り・介助を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存能力を活かせる様に、一人ひとりにあった家事支援・レクリエーション等を提供して、様々な場面で喜びのある生活が送れる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から希望があった場合には、職員間で話し合い、近隣への買物やドライブなどのお手伝いを行なっている。また、御家族様や地域の方々と協力しながら、ホーム外へも出られる様に支援をしている。	一人ひとりの力やその日の希望に沿って、四季の杜へのドライブや花見、香雪園での紅葉見物や湯の川で足湯を楽しんだり、町内会の夏祭りに参加して屋台の出店見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して戸外に出かけられるように支援している。	今後は、外食にも多く出かけられるよう検討しているの、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様で管理出切の方は管理して頂き、困難な場合は管理者で管理させて頂いている。金銭の使用用途は毎月御家族様へ帳簿・領収書で報告させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置し希望に添い対応している。手紙のやり取りも希望に沿ってお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに模様替えを行なっている。物の配置や照明には気を配り、落ち着いて生活して頂ける様にしている。また、当ホームは住宅街に属しており落ち着いた環境であり、日当たりも良好である。	共用空間では、季節に合わせた飾りつけや生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の入居者様とも楽しく交流して頂く空間として、ホールや廊下に数々の椅子を設置し、好きな場所で自由に過ごす事が出来る様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には御本人様の馴染みの品物を使って頂ける様、御家族様に促しており、御本人様が居心地よく過ごして頂ける様に努めている。	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設ではバリアフリー・手すりが完備されており、自立した生活が送れる様に整備している。また、歩行困難な方には居室内でポータブルトイレを設置し、安心安全な生活を送って頂ける様に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームよろこびの家 菜景 1階

作成日: 平成 31年 2月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	14	協議会開催の研修やブロックでの研修等多々あるが、業務都合上出席出来ない事が多い。	出来るだけ外部の研修へ出席し情報を取り入れ自施設へ反映、勉強会を開催していきたい。	30年度より、法人の処遇改善加算が1となり、前年以上に法人内部研修の機会を増やして参りました。その他外部研修の案内を掲示し、自主的な参加を促し、極力勤務等配慮し参加しやすい環境作りを行っています。	1年
2	49	食事について現在は様々な献立を考え季節に合った旬の物等取り入れたり、月に1回程出前を頼むなど行っているが、外食など違った環境の中での食事がほとんど取り入れられていない為、入居者様への刺激が不足している。	ホーム内だけでの食事にこだわらず、外食も行事等として取り上げていきたい。頻度も多くしグループホームらしさを出していきたい。	毎年外食に関する行事を計画はしている。しかし天候不良等で29年度実績は少ない。しかし行事食等を施設内にて提供し対応している。	1年
3	29	以前と比べ、町会との協力が薄れてきている(町会の高齢化等の為)、その他近隣の公共機関等との交流を増やし、非常時の態勢を整えたい。	町会の地域活動に職員を積極的に参加させ地域の若返りを図り、地域活動の貢献に努めたい。また近隣高校の慰問受け入れが前年度より増加傾向なので今後もより良い関係を構築していきたい。その他、新規に地域資源を開発したい。	運営推進会議の年間計画としては、介護関係の法人や企業を呼び、当事業所を地域での介護の窓口になれる様に活動して行きたい。また、地域防災に繋がるような活動も行っていきたい。	1年
4	13	職員を育てる取り組み	職員全員が報告・連絡・相談が出来、入居者様の立場に立って考え接遇・受容・傾聴をしっかりし、職員間で共有しより良いケアとして取り入れる。わからない事をわからないままにしないよう全員でケアの質を向上するように努める。	入居者様の日常生活を職員で把握し報告・連絡・相談をし、より良いケアをおこなっていききたいとの目標でしたが、申し送りや口頭での報告に違いがある事があった為、今まで以上に連携をとり、接遇・受容・傾聴を向上していきたいと思えます。	1年間
5	34	急変時や事故発生等の備え	急変時・緊急時の対応等は研修会で受講しているが、入居者様の様子の変化に気づきや状況把握が出来る。日常生活の中、意識し観察するように努め、早急な対応を心がける。事故発生時には状況を考え各自の役割を把握し行う事が出来る。	今後も研修への参加を促しを行う。入居者様が安心して過ごしていけるように職員全員が入居者様の状態・生活把握を密に情報収集し、共有できるよう心掛ける。急変時・事故発生時の対応はチームで連携し、各自の役割を早急に対応できるよう勉強会を開き、実践して覚えていく。全員が行えるようにしていく。	1年間

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401722		
法人名	医療法人社団向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家 菜景 2階		
所在地	北海道函館市松陰町1-43		
自己評価作成日	平成31年1月18日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401722-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成31年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・笑顔・安心」を理念とし、職員一人一人が理念に則り日々業務に努めております。又、住宅街に位置していることから普段より近隣住民とのコミュニケーションが図れる様に活動しております。行事等開催時には近隣住民の参加もあり日々地域密着に力を入れております。昨年の地域交流を目的とした行事開催は遺愛高校訪問及び慰問行事、七夕、敬老会(ボランティア受け入れ)、函館工業高校演奏会の受け入れです。その他、法人内での委員会活動も積極的に行い交流を通し情報の共有、サービスの向上に取り組んでおります。「事故防止委員会」「身体拘束廃止委員会」「入居判定会議」等

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で作成した理念に沿った支援を心がけ、理念の意味を全員で周知し、より良いケアに繋げていけるよう話し合い、実践の中で提供していけるよう支援させて頂いております。御家族様にも見て頂けるよう提示しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア活動で近くの高校生が歌・演奏・交流を入居者様に提供して頂いております。その他には幼稚園の園児と歌や体操を一緒に行う等の交流を持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に柔軟に密着出来るよう、町会長様とも何らかに参加できる事を話している。町会主催の行事のお誘いがある時は参加できる体制を極力とっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は運営推進会議を行える環境を整え、入居者様や地域の方々との交流を大切に、参加者の意見を聞き入れ、サービスの向上をに繋げております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で相談等をおこなっています。市町村担当者とも連絡は密にとっております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会は定期的に行われ、身体拘束について話し合っています。日中は鍵を開けており、夜間は防犯の為鍵をかけさせて頂いております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会があり、虐待防止について話し合い、職員同士、理解につとめております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護を必要とされる入居者様がない為、行っておりません。成年後見制度等の研修会には参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様と御家族様に十分に納得いく説明を行った上、契約・解約を行っています。その都度説明時には疑問がないか確認しております。疑問時には都度納得頂けるように説明させてもらっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談、窓口担当者を設置して、意見や要望は職員全員が共有し、業務に反映しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人ひとりと面談を行い、意見等を聞き、スタッフ会議等で話し合い、職員全員が共有し業務に反映しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度、管理者は職員と人事考課と面談を行い、能力や努力を評価し、尊重し合える環境を作っています。管理者は職員一人ひとりが目標を持ち、向上心を持って仕事ができるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修や勉強会があった時には声掛けを行い、参加希望の職員には勤務調整を行い、参加後には勉強会を行ったりと職員が共有し、ケアの向上へと努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	勉強会や交流会を地域ブロックに分けて参加しています。法人内外では、パソコンにてメール交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・担当者が中心となり、入居者様の不安・趣味・性格を職員間で把握し、その方にあった会話等を行い、入居者様が不安や悩みを話しやすい環境や信頼関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネージャーが中心となり、面談を行い、御家族様が思っている不安要素や困っている内容を聞き、相談・助言を行い、日頃のケアに盛り込むようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様と御家族様が思われているニーズを伺い必要とされる支援、日常生活に必要な支援を第一に考えケアプランを作成し、入居者様の生活歴・経験を活かし、日頃のケアに盛り込んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の経験・知識を大切にし、職員も学ばせて頂いているという気持ちを持ち、家族のような温かさで一緒に生活し、お互いに支え合える環境の中楽しく安心して生活出来るように関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者様を理解し、本人様の意見を尊重し人生の大先輩という気持ちを接遇にて伝えさせて頂いております。入居者様の知っている知恵や知識を教わりながら一緒に過ごす時間を有意義に過ごして頂けるよう心がけております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の御友人や知人との面会を設けたり、定期的に電話を繋いでいたり、職員・御家族様の協力のもと、思い出の場所に外出し出向かれたり、人や場所との関係や過去に大事にされていたものを途切れないよう努めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの入居者様の性格を把握し、職員が間に入り他入居者様との関係を深めて頂いたり、テーブル・ソファへの座る位置も考え、交友関係を築けるように食事・レクリエーションも全員で楽しんで頂けるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスが終了しても入居者様や御家族様には相談等があった際にはお話を聞かせて頂いたり、支援が出来る事には対応させて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の生活歴お把握し、その人らしく暮らし続ける為の支援に向け、職員は表情を見逃さず思いや希望を汲み取り、御家族様からの情報を得ながら対応し、ケアプランにも活用していく事ができるよう心がけております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様には入居時や面会時にこれまでの生活歴をお聞きし、入居者様には日常の会話の中から聞かせて頂き、フェイスシートを作成し職員全員が把握できるように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で申し送りやカンファレンスを適宜に行い、記録を把握し、入居者様のひとりひとりの1日の日常生活の過ごし方や心身の状態とを見ながら適した対応が出来ように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様や入居者様、必要に応じて医療機関の参加か情報収集を行った後、職員と話し合いや会議を含めたケアカンファレンスを行い、ケアプランを作成させて頂いております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ひとりひとりの様子やケアの記録は個別に行い、申し送りやカンファレンスにて情報共有し把握し、実践の中で活用の出来るケアを考え話し合いをし、ケアプランを見直し活かしていけるように努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様からの意見や要望はより良い提供が出来るよう職員と話し合い、取り入れた際には要望にあった対応が出来るように努めております。都度対応が出来るよう御家族様・入居者様からは気軽にこちらからサービスの話をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで来られる高校生や近くの幼稚園等との交流をし、入居者様に地域の事も把握して頂いております。一緒に楽しんで頂けるよう交流時は支援させて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様や御本人様の希望に沿った医療機関に受診や往診を受けて頂いております。かかりつけ医については往診や受信時に普段の状態や様子等、相談し指示を受ける等で関係を築いております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、医療連携看護師による訪問にて健康管理を行っております。適宜カンファレンス時にも参加して頂いております。24時間体制のもと、随時相談は指示を出して頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時、入居者様の身体、精神状態、日常生活、病歴等を病院関係者に情報提供しております。御家族様と職員と一緒に担当医からの説明を受け、早期に退院できるよう情報交換しております。担当医・看護師へは受診・往診時に状況報告を行う等の関係作りをしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議にて入居者様と御家族様の意欲を聞き、話し合いで方針を決め、グループホームで出来る事を説明し、職員間の共有と支援を考えチームケアにて支援しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故対応に対するマニュアルは作成し、職員がいつでも見れる体制になっています。また、救命救急の講習を受ける等の訓練や全ての職員が把握して対応が出来るように努めております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や火災報知器、消火器の使い方等、年に2回消防署の協力を得て行っています。避難場所も地域の方に協力を求めて確認を行っています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりの性格を把握し、接遇の中で自尊心やプライバシーに考慮した個々の対応する声掛けを行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で入居者様のご自分で決めて頂けるような雰囲気作りや声掛けを行っております。意見が出てこない際は選択して頂いたり決定して頂けるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様がしたい事・やりたい事があった際には尊重し行っております。買い物・外出等の希望があった際は一緒に予定を決め、行きたい所に職員と行かれたり、希望に沿って支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様には自身で季節にあった服装を選んで頂き、毎日の身だしなみにはこちらからお話し、支援させて頂いております。御家族様からは服や下着を持って来て頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物を献立に入れており、四季折々の料理を提供出来るよう努めております。現在では、食器拭き・テーブル拭き等のお手伝いを主に手伝って頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての水分量・食事を記録し、職員全員で把握しております。御本人様が飲みたいものがあつた際には、飲みたいものを提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを促しております。出来ることは御本人様におこなって頂き、支援が必要な方には声掛け・見守り。お手伝いさせて頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛け、必要に応じて見守りさせて頂いております。御本人様の自尊心・配慮に気をつけ接遇させて頂いております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や便通の状態に変化があつた際にはその都度職員間で報告し合っております。便秘にならないよう、日常的に水分摂取を適量飲用して頂き、未摂取時便秘があつた際にはこちらから説明し、摂取して頂いております。状況に応じて医療連携に報告しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	1人1人のニーズに対応出来るように職員間で時間帯を決めず、その日の希望により入浴をしています。希望が聞かれない方には意思を尊重するように声掛けを行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日勤帯では体操等、身体を動かして頂き、夜間はぐっすりとお眠できるように支援を行っております。就寝時間は決めておらず、入居者様が眠りたい時は居室に誘導し、休んで頂くように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬は1人1人違う為、ひとりひとりの薬の副作用をきちんと理解するように努めております。入居者様本人が服薬する時は職員が必ず見守りをし、服薬確認をおこなっています。服薬が自分で出来ない方には、職員にて支援させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に家事を行ったりすることで、達成感と役割を感じて頂いています。またトランプ・かるた・体操・歌等のレクリエーションを行う事でコミュニケーションが増やせるように支援しています。入居者様自身が行いたい事があった際には個別にて支援させて頂いております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望には散歩やドライブへお連れし、その他にも不穏等が見られた時には気分転換に散歩等し、外の空気を感じリラックスをして頂いています。外出時には体調の確認を行い、車椅子利用の方にも、近所の散歩等、地域の人達と協力し合い外出しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれ、ご自分で支払いが出来る方であっても見守りを行っています。自分で支払いが出来ない方については、職員が代わりに支払いを行う等、支援させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様希望で御家族様や友人に電話をかけた時等、支援しています。お手紙が届いた時には読んで差し上げたり、代筆をおこなっています。また、手紙を書かれた方の投函の支援をおこなっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく落ち着いた雰囲気で作られた居間兼食堂は大型テレビやDVDを設置して、いつでも見たり聴いたりする事ができ、廊下や多目的室にも椅子やソファを置いています。浴室も清潔に掃除を行っており、ゆっくりと入浴出来るようになっています。トイレもその都度、掃除を行っており、不快感なく利用させて頂いております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が座ってお話出来るように椅子を置いたり、外の景色を見て、お話出来るように配慮しております。音楽をかけながら入居者様同士で歌を歌われる等個別ケアでも1人の時間を持って頂けるように支援しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に入居者様と御家族様に説明し、使い慣れている物や家具等を持ってきて頂き、出来るだけ早く施設に慣れて頂けるように、家に近くするよう配慮すると説明をおこなっております。携帯電話や仏壇を持ち込まれている入居者様もおります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様も安心して自立した生活がおくれるようにホール・廊下・トイレ等はバリアフリーになっておられます。家庭用エレベーターも配置されています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームよろこびの家菜景 2階

作成日: 平成 31年 2月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる取り組み	職員全員が報告・連絡・相談が出来、入居者様の立場に立って考え・接遇・受容・傾聴をしっかりと、職員間で共有しより良いケアとして取り入れる。わからない事をわからないままにしないよう全員でケアの質を向上するように努める。	入居者様の日常生活を職員で把握し報告・連絡・相談をし、より良いケアをおこなっていきたいとの目標でしたが、申し送りや口頭での報告に違いがあった為、今まで以上に連携をとり、接遇・受容・傾聴を向上していきたいと思えます。	1年間
2	34	急変時や事故発生等の備え	急変時・緊急時の対応等は研修会で受講しているが、入居者様の様子の変化に気づきや状況把握が出来ない。日常生活の中、意識し観察するように努め、早急な対応を心がける。事故発生時には状況を考え各自の役割を把握し行う事が出来る。	今後も研修への参加を促しを行う。入居者様が安心して過ごしていけるように職員全員が入居者様の状態・生活把握を密に情報収集し、共有できるよう心掛ける。急変時・事故発生時の対応はチームで連携し、各自の役割を早急に対応できるよう勉強会を開き、実践して覚えていく。全員が行えるようにしていく。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。

